

令和7年度 日本大学豊山高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

旧制豊山中学校から123年、日本大学が設置する学校となって72年の歴史と伝統の上に「強く 正しく 大らかに」を校訓とし、男子生徒の学び舎にふさわしい凜とした人材の育成を目指し、中等教育の実践を継続している。

また、卒業後の大学進学を目指すことを第一の目的として本校に入学する生徒の進路指導体制を充実させ、名実共に中・高・大一貫教育の確立を図っている。

【本校の特徴】

交通至便な都心部に位置する私立男子中高一貫教育校としての高い評価を受け在籍者数は2,142名（高校1,435名・中学校707名-令和7年4月現在）を数える。令和6年度、高校卒業後の進路状況は在籍生徒の95%が大学に進学した。内訳は日本大学への進学が353名（在籍生徒の74.5%）、国公立・他私大への進学が97名（在籍生徒の20.5%）であった。教育環境整備の一環としては、平成27年4月の新校舎竣工に続き、平成28年12月には中台総合グラウンドの人工芝化も完成した。生徒はこの環境の中で充実した学園生活を送っている。さらに、平成30年度から生徒用タブレットの導入を始め、現在は中高全生徒が所持している。全教室に設置した電子黒板と合わせ万全のICT教育の環境も提供している。世間では少子化の影響を懸念する声が上がっているが、充実した教育環境を提供する校舎をはじめとしたハード面に加え、日本大学正付属校として唯一の男子校としての特色ある教育が評価され、多くの受験生が志願している。

令和6年度末にはスクール・ミッションを制定したことに加え、校訓に基づいた生徒指導及びあらゆる学びの土台となる基礎学力の充実、集団行動を通じた規範意識の醸成、国際社会で活躍できる素養の育成、生徒たちの多様な進路の実現に向け、今後も様々な取組を行い、より良い環境の中で生徒を伸ばしていきたい。

【令和7年度の重点目標】

教 務：今まで使用してきた教務システムから「BLEND」というフルクラウド統合型校務支援システムへ変更することが決まっている。出欠管理・成績管理・帳票管理及び連絡機能を中心とした校務支援システムである。どの機能もシンプルな設計となっており、移行時はある程度の戸惑いは生じることは予想されるが、フルクラウド型サービスということもあり操作性は改善されることが予想される。導入元年であるため手探りで進めていく部分もあるが、機能を使いこなすことで業務の効率化を図っていききたい。また進路指導部と連携を強化して、より高大連携学部の増加及び進学実績を上げるための方策を推進していききたい。令和7年度担当である教職員研修においては、どの生徒も安心して学べる環境づくりを目指して講演会を企画運営し、多様化する生徒やその保護者対応について理解を深める機会を設ける所存である。

生活指導：令和7年度に向けては、令和6年度に引き続き生徒の試験における不正行為を0件とすることを目標としたい。また、不正行為に限らず、担任を中心に生徒の様子を細かく観察し、人間関係の構築をはじめとした様々なトラブルに未然に対応ができるよう、教員の協力を仰ぎたい。令和6年度目立った校外における一般の方々とのトラブルについても、学校としての指導だけではなく、御家庭での御指導もいただけるよう、年度始めの保護者会を中心に、保護者と話ができる機会を作りたい。校則については、令和7年度よりポロシャツの導入が始まることから、これについての問題に柔軟に対応できるよう準備を進めたい。また、学校指定品の取扱いやその他の問題についても時代に合わせた対応ができるよう検討を進めたい。研修会や講演会の開催については、年間行事の増加に伴い全体での実施が難しい場合には、教員への研修会の告知や生活指導部で参加した講演会の情報共有などを通じて情報提供ができるよう働き掛けていきたいと考えている。

進路指導：法学部が始めた法曹コース入試連動型プログラムについては、潜在力ある生徒が多く参加できるように、進路指導部からもアピールしていきたい。同じく経済学部や商学部とも連携したプログラムを継続することで、生徒の将来を見越した行動の後押しをしていく。令和6年度は高校3年生において総合型選抜にチャレンジする生徒が増えたことを踏まえ、今後懸念される「理解不足による総合型選抜へのチャレンジ」を抑える必要がある。そのために、年度当初に実施される各学年の保護者会において、総合型選抜についての説明をしたい。

保健衛生：防災訓練については、現状に合わせた最適な訓練ができていくが、様々な災害が起こり得ることを考えると、まだまだ改善点はある。特に、土砂災害を想定した避難訓練については、開始から日が浅いため、区の協力を得ながら防災知識を獲得し、より効果的な訓練を実施できるようスキルアップを図りたい。令和7年度は、「BLEND」の導入により、紙媒体での健康調査票やMicrosoft Forms 入力による提出形式ではなくなり、各家庭においては生徒調査票と並行して入力することとなるため、全生徒の提出率が大きく向上することと、データ管理の確実性が図れることが期待できる。ただし、データの取扱いにはこれまで以上に注意を払い、問題が生じないよう努めていく。

図 書：＜学校図書館システムの刷新＞

令和7年度より新規で学校図書館システム「EL-1」を導入する。

夏季休業期間を利用して、システムの設定、データ移行作業等の導入作業を経て、第2学期から運用する。

WebOPAC機能なども活用し、新着図書などの案内など、今まで以上に生徒の読書活動を推進していきたい。

＜図書委員会活動の充実＞

昼休み、放課後の学校図書館の当番の徹底と夏季休業、春季休業期間には蔵書点検を実施する。

それ以外にも、図書委員会でビブリオトーク、ビブリオバトルなどの企画も促し、委員会活動も更に充実させていきたい。

＜高校芸術鑑賞教室＞

令和7年度は映画鑑賞を企画している。令和7年6月19日（木）に実施予定である。高校生にとって有意義な行事になるような映画を選定したい。

＜令和7年度学校要覧＞

各部署に依頼し、文言、記述の校正を各部署で十分行い、ミスのない要覧を作成する。

〔令和7年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
教育活動	特色・魅力のある教育への取組	「選ばれる学校」としての地位を確立すべく、教育環境の高度化と生徒満足度の向上を最重要課題と位置付け、改革を推進した。	B	<p>今後は、ICT教育を更に深化させるため、生徒用端末のキーボード付きモバイルPCへの完全移行を推進していく。これは単なる機器の更新ではなく、生徒の探究活動や論理的アウトプットの質を飛躍的に高め、授業の可能性を広げるための投資である。</p> <p>また、高大連携においては、進路指導部と大学側が密に連携し、生徒が早期からキャリアを見据えられる強固な体制づくりを進める。</p> <p>質の高い教育こそが在校生の満足度を高める最大の要因であると捉え、これらの施策を通じて学校ブランドを向上させ、多くの受験生に選ばれる学校づくりを実現する所存である。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
	生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	生徒による授業評価を自分事として受け止め、具体的な改善点を各々考え分かりやすい授業作りを行った。	B	今後は、「教え手の意図」と「学び手の理解」の間にある乖離を解消することに重点を置いて取り組んでいく。各教員が主体的に授業を見つめ直し、「視覚的な補助教材の活用」や「きめ細やかな机間指導」といった改善策を積極的に講じることで、学校全体としてユニバーサルな視点を持った分かりやすい授業づくりを推進していく方針としている。生徒の声を「自分事」として捉え、即座に授業改善へ反映させるサイクルを確立し、生徒の学習意欲と教員の指導力を共に高める相乗効果を創出することを目指す。
	高大連携教育の取組	進路指導部と連携している。高大連携教育の一環として行われた法学部との連携教育では4名、経済学部では3名、商学部では3名が参加した。国際関係学部も案内をしたが、参加者が0名であった。また、令和7年度から始まった法学部との新たな連携教育の一つとして、将来の学校推薦型選抜(指定校制)までつながる入試連動型プログラムがある。こちらでも2名の参加者がいたが、1名が途中で辞退をした。	B	学部・学科の正確な情報や生の声を届けるには、大学(学部)側の協力が不可欠である。単に内部進学率を上げるだけではなく、附属校生一人一人を大切に、彼らが早期から各学部・学科の学問的な魅力や奥深さを肌で感じられる機会を創出する必要がある。そのために、今後は進路指導部とより一層密に連携し、高大接続プログラムの充実など、具体的な施策を推進していく。
学校生活への配慮	いじめ防止のための取組・いじめ事案への適切な対応	学期ごとの「いじめ・嫌がらせアンケート」(以下「いじめアンケート」という)を実施し、担任を中心に学年全体で対応・対処した。各担任は、授業中や休み時間、放課後を利用して、生徒の常日頃からの行動等を見極め、面談等を実施し、いじめ防止と早期発見に努めている。また、問題解決に当たって保護者に協力を得られるよう、年度始めの保護者会で全体に向けてお願いをしたことで、スムーズな対応を行うことができた。	A	毎学期行ういじめアンケートにて生徒の現状を把握するほか、日頃から担任教員を中心に生徒の状況を細かく把握することで、いじめの防止及び早期発見・早期解決に努めたい。また、生徒に対しては他者の心情を考えた行動や言動ができるよう、常日頃から指導をしていきたい。校内に設置されているいじめ防止対策委員会は的確に運用ができており、今後も適切な対応に努める。 いじめ問題への対応に当たっては保護者とのトラブルが課題である。学校と保護者の認識に差異があることで、本来必要のない大きな問題に発展することも多い。今後は学校の方針に従っていただくだけでなく、教員側も保護者の心理について学ぶことが必要だと考える。研修や呼び掛けを通して適切な対応ができる基盤を作っていく。
	危機管理マニュアルに基づく安全管理及び危機管理のための取組	不測の事態に備えたマニュアルを各種整備し、対応の準備ができています。ただし、マニュアルが全教員に浸透しているかは、不透明であるほか、訓練による実践はできていない。個人情報の管理等、日常から行われる安全管理については徹底できた。	B	年度始めの段階で各種マニュアルを教員に周知するほか、生活指導部主催の教員研修会で訓練を行うことも念頭に検討している。安全管理や危機管理について、教員の理解を深めていただけるよう取り組んでいく。
	研修会の参加及び講演会等の開催	主任や生活指導部の教員を中心に私学協会や城北地区補導協議会などの研修会・情報交換会に参加し知識の獲得に努めた。そこで得た知識は教職員会議をはじめとした機会を通じて教員間で共有した。ただし、本校教員を対象とした研修会や説明会は実施できなかった。	B	令和8年度に実施予定である生活指導部主催の教員研修会においては、問題行為への対応や保護者対応、特性のある生徒への対応など、本校にとって必要と思われる研修を提供し、教員の理解を深めていただける機会を作りたい。生活指導部員の研修参加については引き続き積極的に行いたい。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
課外活動	「部活動」への対応	高校では1,435名に対して1,033名が所属(72%)し、中学校では707名に対して657名が所属(93%)している。 文武両道を掲げており、部活動への加入率は良好であった。	A	積極的に部活動への参加を勧めていく。ただし、部活動指導が教員の長時間労働への温床にもなっているため、複数顧問制を取り入れ、特に安全面、指導面及び指導時間面の観点を検証する。
	「体育大会」への対応	東京体育館において中高合同の体育大会を行った。学年をまたいだ種目や競技を増やしたことで、一体感を得ることができた。	A	令和8年度は開催場所が変わるため、まずは生徒・教員その他の来場者の安全管理を最優先に考え、企画を進めていく。学校全体の意見を取り入れた上で、運営が可能かどうかを体育科教員と相談し、種目を決定する。本校独自の視点による個性的な体育大会を目指す。会場が調布市であるということからも終了時刻に留意する。
	「豊山祭」への対応	他校の文化祭に積極的に参加し、見学した内容を研究した上で、本校に取り入れられるものがあるかということを検討した。	B	生徒会役員が主体となって在籍生徒へアンケートを行うなど、学校全体の意見を取り入れた上で、実施可能なことと不可能なことを選別し、本校独自の視点による男子校ならではの個性的な豊山祭を目指す。
進路指導	日本大学進学に向けての取組	7月の定期テスト後に、日本大学全学部によるオンライン学部説明会を高校2年生対象に実施した。各生徒が希望する学部の説明を2時間聴講し、各自の進路選択に役立てた。	B	各学部からの案内と併せて、該当学部の特徴や高大連携教育のメリットを生徒に対してアピールをするために、グーグルクラスルームによる周知、進路情報新聞『Compass』による周知、掲示板による周知の頻度を増やしたい。
	進路指導の共有化	進路情報新聞『Compass』の発行を年間11回行い、生徒に向けて情報発信をした。教員に対しても同じように進路指導の参考になるようなコンテンツを盛り込んだ。特に『Compass』以外にも予備校等からの分析情報を共有した。	A	左記の『Compass』の中では、表や図を増やして生徒が情報を容易に理解できるようにしていく。また、予備校等からの分析情報の共有のみならず、進路に関する情報誌のアピールや掲示物の充実を図りたい。特に自習室前にある各大学等からのパンフレットやイベント案内については、積極的にアピールしていきたい。
	進路指導の充実	生徒・保護者共にオンラインに慣れてきたこともあり、書面での情報よりも説明会そのものをオンライン化しても違和感なく参加できることから、生徒への進路に関する説明や保護者会での説明をリアルタイムのオンライン又はオンデマンドにすることを意識した。そのことで動画がアーカイブとして残り、後日繰り返し観られるようにした。特に保護者に対しても間違いのない情報を提供することに注力できた。	A	進路相談室前にある掲示板の掲示内容に対し、生徒が特に興味を持っていたことから、掲示内容を頻繁に入れ替えて多くの有益情報を生徒に提供していきたい。また、生徒に対しての進路指導をする教員に対しても、指導の充実を図るために情報提供を行っていきたい。特にAIを利用した志望理由書作成補助教材を導入し、高校3年生担任の個別指導の難易度を下げ、なおかつ生徒自身の志望理由書の完成度を上げていきたい。
保健衛生	教職員健康診断の年内受診率100%の実施	令和8年1月30日時点で対象99名中94名が受診済みで、あとの5名も受診予定であることは確認済みである。	A	年度内受診率100%を目指し、声掛けをしていく。
	生徒及び教職員の安全	令和7年度は、防災訓練①地震及び、②土砂災害を予定どおり実施できた。護国寺への避難経路確認動画も補助的役割を果たした。	A	土砂災害避難訓練は、実施形態をよりスムーズなものに改善する。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
	生徒及び教職員の健康	毎月『保健だより』を発行し、情報提供をしてきた。また、『相談室だより』を新規発行することができた。	A	折に触れて感染症対策の情報提供及び指導を引き続き行う。また、メンタルケアの観点で新たに始めた『相談室だより』も継続予定である。
図書	専任の学校司書、司書教諭の増員	図書部では、主任、副主任の2名が司書教諭ではあるが、専任の学校司書はいない。	C	専任の学校司書を希望する。
	学校図書館の読書センター、学習センター及び情報センター機能の充実	新学校図書館システム「EL-1」の導入が完了し、運営している。	A	導入した新学校図書館システムのWebOPACの機能を活用して、学校図書館の利用を推進する。
広報	募集活動の拡充と方法	学校案内や出版媒体を活用して、本校をより広く知っていただくよう努めた。また、ホームページの内容一新し、受験生が必要な情報を得やすいよう工夫をした。	A	学校案内冊子とホームページとのリンクや学校外における学校説明会の参加会場の増加、来校者数の増加を目標とする。
	募集活動の拡大	学習塾訪問件数 3,000 件、特に近隣の学習塾には学期ごとに訪問して情報交換をするなどを実施した。	B	学習塾への訪問件数及び資料送付件数を増加させる。大手学習塾はもちろんのこと、中小個人学習塾を含めより広く、より深く本校を知っていただくようにする。
		学習塾訪問件数の増加及び訪問者数の増加並びに大手学習塾及び中小個人学習塾経営者の来校者数増加を図った。	A	教育関係者対象の学校説明会来校者の増加を目指す。当該年度だけでなく、次年度以降も「生徒を送りたい」と思っていただけのように、本校の魅力を伝えられるようにする。
管理運営	図書館の活用促進に向けた取組	令和6年度より構想をスタートした図書館の新システムが令和7年度2学期より稼働し、生徒の利便性が向上した。	A	令和8年度に始まる中学の「朝カツ」や、各教科学習、高校の「総合的な探求の時間」及び中学の「総合的な学習の時間」、増加しつつある大学入試「総合型選抜」対応等、多方面で生徒が活用できるよう環境を整えたい。
	総合的な学習・探求の時間に関する取組	中学校の「総合的な学習の時間」、高校の「総合的な探求の時間」について、学校行事についてのみならず、各学年で独自の活動を展開し、2学期中間期、学園祭及び3学期末に全体的に発表する機会を設けた。	A	教育効果が得られるよう教員を配置し、年間の学習計画を立て、令和7年度に実施した探究活動をより充実した形で継続していく。
	教育力向上に向けた取組	高校では基礎学力到達度テストについて研究した上で独自の作問をして年3回「錬成テスト」として実施している。中学校では始業前に「MAP」として3科目を中心に毎朝実施し、生徒自身が基礎学力の定着状況を確認できるようにしている。 グローバル教育の充実として放課後にはネイティブ教員と生徒が自由に会話できる「フリートーキング」プログラムを実施している。 教科学習とリンクして「総合的な探求の時間」や「総合的な学習の時間」に重点的に取り組むことにより、読む力、考えをまとめて発信する力を養うよう取り組んだ。	A	令和7年度同様に基礎学力到達度テスト対策としては、通常授業、夏期講習等で、大学共通テストへの対策については、特進クラスを中心に通常授業や夏期講習、自由選択講座等で対策する。 効果的なICT教育、それに伴う教員の技術向上への研鑽については令和8年度も引き続き継続する。 令和8年度新たに中学で従来行っていた「MAP」を「朝カツ」としてリニューアルし、従来の教科的基礎学力に加え、論理的思考や読解力などを養う新たな形にする。

【令和7年度の自己点検・評価結果概要】

教 務：従来の教務システムから「BLEND」へ移行した。これは出欠・成績・帳票管理及び連絡機能を中心とした校務支援システムである。どの機能もシンプルな設計だが、移行当初は多少の戸惑いも見られた。しかし、フルクラウド型サービスという利点もあり、操作性は日々改善されつつある。導入初年度のため手探りの部分もあるが、機能を使いこなすことで業務効率化は図れた。また、進路指導部との連携を強化し、高大連携の拡大及び進学実績向上のための方策も推進できた。

生活指導：令和7年度は高校において、『定期試験における不正行為0』を達成することができた。生活指導部だけでなく、教務部や各学年の教員にも協力を仰ぎ、不正行為を未然に防ぐことができた。ただし、中学では依然として定期テストにおける不正行為が発生しており、生徒が自らの力で試験に臨むことができるよう、取組を続けたい。いじめをはじめとする人間関係のトラブルについては、その都度学年教員を中心に適切な対応を取ることができた。ここ数年、問題行為が発生した際の初期対応について、各学年で主体的に対応する基盤ができていることは大きく評価できる点であると考え。保護者対応については今のところ各御家庭の御協力をいただいている状況ではあるが、大きなトラブルにつながりかねない状況も生まれている。保護者の心理について教員側の理解を深めることも重要であると考え。

中学では特性を持つ生徒への対応に苦慮するケースが多く見られた。中でも、度々問題行為を起こす生徒や学校への登校が難しい生徒に対して、カウンセラーとの協力も図りながら粘り強く対応をすることができた。校則や学校指定品については、ここ数年で適切な整理を進めることができた。令和7年度のポロシャツ導入はおおむね成功といえ、生徒のよりよい学校生活に寄与することができた。令和8年度はその他の学校指定品について変更を行う予定である。

生 徒 会：部活動については、高い加入率を維持するため、例年新入生対象部活動説明会を行い、在校生部員より活動内容や活動目標などを披露してもらっている。さらに高い継続率を維持するため、部活動保護者会を各クラブが必ず行い、顧問コーチと保護者との連携やクラブの在り方などについて共通理解を図る機会を設けている。この点については、高い評価を得ているため今後も引き続き、継続して行っていきたい。しかし、日本大学の教育理念「自主創造」と本校の校訓等に基づいたボランティア活動や地域などとの交流活動については、活動実績が乏しいという現状があるため令和7年度学校自己評価においては低い結果となっている。本校として「能登半島地震」や「ユニセフ」への募金活動は行っているが、近隣住民の方との交流や地域へのボランティア活動など生徒が実際に体験できる機会がないため、本件については、生徒会指導部単体ではなく、生活指導部や広報部などの連携を図りつつ進めていけるよう尽力したい。

進路指導：令和7年度は、総合型選抜や学校推薦型選抜などの年内入試に挑戦する生徒が増加し、それに伴い進路決定の早期化が進んだ。一方で、日本大学への進学率は令和6年度より低下したものの、学校推薦型選抜による進学者数は増加しており、進路選択の多様化が進んでいることがうかがえる。また、難関大学への挑戦者及び合格者数が増加している点は、本校の進路指導の成果として評価でき、今後も継続していくべき傾向である。

評価できる点として、年内入試志向の高まりを事前に見越し、大学側の動向を踏まえた情報共有や準備体制の整備を行ったことで、多数の総合型選抜併願にも比較的円滑に対応できたことが挙げられる。担任間での情報提供や事前準備が功を奏し、上位大学への合格実績を維持できたことは、組織的な進路支援体制の成果といえる。

一方で、上位大学の総合型選抜における選抜方法や課題の複雑化により、担任への負担が大きくなったことが課題として明らかになった。くわえて、生徒ごとの出願状況や準備の進捗管理が十分に行き届かず、志望理由書の初期段階での完成度を高められなかった点が、その後の指導の質に影響を及ぼした。

以上を踏まえると、令和7年度は多様化・早期化する入試制度に一定程度対応し、難関大学への成果も上げた点で評価できる一方、個別対応の負担軽減や情報管理体制の強化、早期段階からの指導体制の充実が今後の課題である。今後は、進捗管理の仕組みづくりや指導の標準化を進めることで、より安定した進路支援体制の構築が求められる。

保健衛生：令和7年度は、10月下旬・11月上旬にインフルエンザ罹患者が多数出て、学級閉鎖・学年閉鎖・学校閉鎖が必要な事態となってしまった。しかし、これらの英断により、特に高校2年次の修学旅行中の健康トラブルは最小限にとどめることができた。

教職員健康診断の受診は令和6年度ほど順調ではないが、健診当日に体調不良で延期となったケースもある。未受診者の受診予定は確認できており、全員受診完了までもう少しである。

健康調査票のMicrosoft Forms形式は改良ができ、スマートに回収できた。令和8年度は、フルクラウド統合型校務支援システム「BLEND」と連携したい。

図 書：＜学校図書館システムの刷新＞

中学、高校の新生を対象にオリエンテーションの一環として、新生図書館ガイダンスを実施し、図書館の利用方法について説明している。ガイダンス時に図書の貸出しも体験し、読書の大切さも啓発している。

令和7年度より1学期から本校管財係及び日本大学本部IT管理課、本校図書部教員、学校司書による検討を重ね、夏季休業期間を利用して、システムの設定及びデータ移行作業等の導入作業を経て、第2学期から運用を開始した。

＜図書委員会活動の充実＞

昼休み、放課後の学校図書館の当番を徹底し、貸出し業務や図書資料の整理について指導している。また、春季休業期間に蔵書点検を実施した。

＜高校芸術鑑賞教室＞

令和7年6月19日（木）に映画「ぼくたちの哲学教室」を鑑賞した。

＜令和7年度学校要覧＞

各部署に依頼し、ミスのない学校要覧を発行できた。

広報部：令和7年度は、外部に対してアピールをする機会が少なくなりました。また偏差値の上昇に伴い、「以前よりも合格が勝ち取りづらい」という印象を持たれてしまうことが多い。本校の魅力を伝えるとともに、第一志望で受験をしていただける層を増やしていきたい。

管理運営：学校の教育・経営方針は、校務運営委員会及び教職員会議等を通して各分掌組織に適切に周知され、各分掌組織は効果的に機能している。学校運営についてのPDCAサイクルについては、校務主任を中心とした日常的モニタリングと相まって良い形ができつつある。また、教職員の質向上のためのSD研修として毎年末に実施する教職員研修会が極めて効果的なものとなっている。良好な就学・就業環境作りについては、毎週水曜日に朝会時の注意喚起により周知している。学校の経理など財政運営は適切に行われている。

〔令和8年度の重点目標〕

教 務：これまでの慣例を超え、未来を見据えた抜本的な改革を推進する。価値観やニーズが多様化する現代だからこそ真に必要な教育活動を見極め、資源を集中させる戦略的な姿勢で向き合う。私たちが何より最優先するのは「在校生の満足度向上」である。日々の教育の充実が生徒の輝きとなり、その輝きこそが未来の受験生を惹きつける最大の魅力になると確信している。進路指導部と連携した高大連携の推進など具体的なアクションも加速させる。現状の評価に甘んじることなく、「常なる進化」をスローガンに掲げ、生徒・保護者の皆様と共に歩み続け、少子化の時代においても「選ばれ続ける学校」としての確固たる地位を築いていく。

生活指導：令和8年度は、令和7年度に高校で達成することができた『定期試験における不正行為0』を中高で達成できるよう取り組みたい。また、不正行為に限らず、担任を中心に生徒の様子を細かく観察し、人間関係の構築をはじめとした様々なトラブルを未然に対応ができるよう、教員の協力を仰ぎたい。保護者対応については、引き続き学校での指導に理解いただけるようお願いを続けていくが、一方的に学校の指導に従っていただくのではなく、教員側が保護者の心理に寄り添い、適切な対応ができることを目標としたい。

教員への研修や危機管理への理解については、令和8年度に予定されている教職員研修において教員の理解をいただけるよう、よりよい研修会を運営する準備を進めたい。

また、令和8年度からは新たな取組として、生徒自己理解調査の業者変更が行われる。情報の管理に注意するとともに、生徒・教員双方に有益なものとなるよう、適切な運営を進めたい。

生徒会：部活動については、高い部活動加入率を維持しているため、引き続き生徒への部活動参加を促していきたい。その上で、学業と部活動の両立を図りながら心身に健全な男子の育成に努めたい。体育大会においては、関係者全員の安全管理を第一優先として企画運営を進めていく。本校としては、初めて使用する会場となるため、会場への生徒の登下校指導や円滑な競技の運営ができるよう十分に審議検討を重ね、成功につなげていきたい。豊山祭については、より多くの方々に来場してもらえるよう広報部と連携しながら進めていく。飲食物を扱う部門もあるため、衛生管理の徹底についても引き続き行っていく。また、できる限り生徒が主体となれるように教職員が支援していく形を取っていきたい。

進路指導：本校進路指導における重点目標は、①年内入試対応力の強化、②担任負担の軽減と指導体制の効率化、③日本大学進学率の向上、④難関大学・上位大学への進学実績の拡充及び⑤進路支援環境の充実の5点に集約される。

第1に、総合型選抜・学校推薦型選抜への対策強化が重要な目標である。併願制限が困難な現状を踏まえ、併願パターンの整理と戦略的な出願指導を進めるとともに、AIを活用した志望理由書作成前の「壁打ち」による思考の深化を促し、早期段階から書類の質を高める体制構築を目指している。

第2に、担任の業務負担軽減と指導の質の向上が重点目標である。進学クラスにも総合型選抜受験者が拡大する中、事前指導の充実やICT活用によって添削業務や進捗管理を効率化し、持続可能な指導体制の確立を図ることが求められている。

第3に、日本大学への進学率70%の達成を見据えた取組の強化が重要課題である。学部見学や説明会、高大連携、体験授業などを通じた進路意識の醸成を継続しつつ、参加者が伸び悩んだ分野については働き掛けの改善を行い、安定的な進学者確保を目指す。

第4に、GMARCH以上20%を目標とする難関大学・国公立大学への進学支援の充実が重点である。特進クラス向け進路指導プラットフォームの活用促進に加え、図書部と連携した赤本の重点整備により、受験環境を体系的に整備し、学習支援体制の底上げを図る。

第5に、進路指導の情報活用力の強化が重要な目標である。共通テスト自己採点や各種リサーチのオンライン化を生かし、分析資料や動画の共有を通じて、担任・生徒双方の情報選択力を高め、的確な出願判断につなげる体制づくりを進めている。

以上により、本校の重点目標は、AI・ICT活用による年内入試対応の高度化と業務効率化を基盤としつつ、日本大学進学率及び難関大学進学率の数値目標達成を見据えた、総合的な進路支援体制の構築にある。今後は、学習環境整備、情報管理の体系化及び個別最適化支援の充実を通じて、持続的な成果向上を目指すことが重要である。

保健衛生：防災訓練は、様々な災害が起こりうることを考えた、バリエーションの豊富さが求められる。土砂災害避難訓練については、令和7年度のやり方をベースに改善を図り、より効率的な形式にしていきたい。令和8年度は、健康調査票を新しいフルクラウド校務支援システムに連携させたいと考えているが、個人情報の取扱いには十分に注意を払い、問題が生じないよう努めて行く。

図書：＜学校図書館の運営＞

WebOPAC機能なども活用し、新着図書のご案内やレファレンスを充実させて、生徒の読書活動を推進していく。

＜選定基準の策定＞

本校の生徒にふさわしい図書資料を充実させるために、選定基準を策定する。

<図書委員会活動の充実>

昼休み、放課後の学校図書館の当番の徹底と夏季休業、春季休業期間には蔵書点検を実施する。

<令和8年度高校芸術鑑賞教室>

令和8年度は、東京演劇集団風による「Touch 孤独から愛へ」演劇鑑賞を企画、実施する。

<令和8年度学校要覧>

各部署に依頼し、文言記述の校正を十分に行い、ミスのない要覧を作成する。

<紀要第39輯>

隔年で発行している紀要である。教職員の研究成果として海外研修の研究発表や自己研さんの研修や各教科の授業参観研修報告など充実した内容になるよう執筆者を募り、編集、発行する。

広報部：外部に対してアピールをする（学習塾訪問及び外部説明会への参加）機会を確保する。また「生徒による広報委員」と協力し、受験生及び保護者の方々に「男子校」のナカミを知ってもらい、第一志望で受験をしてもらえる層を増やしていく。日頃の説明会においても生徒の様子を見ていただける機会を増やす。

管理運営：①教室及び講義室等の環境整備に努め、良好な学習環境を保持する。

②ICT環境の更なる整備、充実を目指し、教育効果や利便性の向上につなげていく。

③危機管理に対する取組を充実させ、安心、安全な学習環境を目指す。

以 上